

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	医療法人社団倭会 グループホームしづく	評価実施年月日	平成21年10月6日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年10月21日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らしていることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価は職員の自信や反省になり、意識向上にも繋がっている。また、今後の改善点などについて業務ミーティングなどで話し合い、スタッフ同士で意見交換をし改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1度運営推進会議を行っており、施設の情報等を報告し、地域住民の方、民生委員の方などと意見交換を行っている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>町内会に発行する新聞などを市役所に配布したりと機会を設けている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修に参加したり学ぶ機会を設けているが、それを生かす機会がないので、今後活用できるようにしていきたい。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>年に1度程、高齢者虐待について学ぶ機会があり、個人的にも学んだり、施設内で虐待が起こらない環境作りに努めている。</p>	○	<p>虐待についてもっと積極的に取り組み、職員同士、意見交換が出来る機会を設け話しあう時間をもっと作っていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居の際、ご家族に入居に関しての契約書、重要事項説明書を一項目づつ説明し、質問があればその都度分かり易く答え、納得していただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様からそれを受けたときは管理者へ報告したり、業務ミーティングのなどで解決策を話し合っている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族が面会に来所されたり、遠方で来所が難しいご家族には、電話やFAXなどでその都度報告を行っている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	職員に対して、ご家族様より積極的な意見はあまり聞かれないが、意見箱(アイデアボックス)などを設置するなどして対応したり、ご家族の思いを理解しようと努めている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員がいつでも相談しやすい環境を作っている。また、業務ミーティングで意見を反映させてもらっている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	急な勤務変更があった時には、お互いをカバーし合い、その都度職員間で話し合い調整を行っている。また、確保や調整の情報などをその都度、職員に報告している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	入居者様に混乱をきたす為、異動や離職は極力抑えるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>職員に適した研修を受けられる様、機会が確保されている。</p>	○	入居者様の重度化に伴い、力任せではなく人間の自然な働きに沿った、介助される方の力を利用し、安楽で安全な技術を全ての職員が早急に学ぶ必要があると感じる。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>グループホームの広域連絡会などの場を設け職員同士で意見交換をしたり、交流する場があったり、相互訪問やケース発表会等を行っている。</p>	○	勤務以外で参加するのは大変だが、チームケアをするには、お互いの意識確認も大切なので多くの職員が参加出来るように取り組みたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>その都度職員に声を掛け相談しやすい環境が作れている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>職員に積極的な言葉掛けをしたり、勤務状況なども出来るだけ配慮してシフトを考え直しているように思う。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居者様が不安など気持ちを訴えてくる時には、その都度話を傾聴し、不安を軽減していただくよう努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>家族から不安などが聞かれた際には、その不安や疑問を解決できるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者様ご本人と家族の話を聞き、どちらも納得できるような対応に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設内の見学や、はじめの段階でご家族の方にも同伴して聞き徐々に入居者様ご本人の負担を少なく馴染めるよう取り組んでいる。	○	入居者様が入所され不安な時には、ご家族の方と一緒に泊まっていただく等して働きかけている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一方的な目線で見ず、同じ時間を過ごしているということを忘れず、相互に協力し合う関係づくりをしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の方の面会時は、入居者様の近況報告などを行い、分からない事などはご家族に以前のご本人様の様子や生活等の情報の提供をいただいている。	○	もっと家族の方と情報交換が出来る場やコミュニケーションを図る時間を作り上げていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族が抱えている悩みなどにも傾聴し、ご本人様とご家族の思いを聞いた上でご本人様、ご家族にとって良いと思われる関係作りの対応を行っている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまで通われていた、地域の老人クラブ活動の参加等など支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様の様子を見ながら、必要な時にどのような声掛けが良いかなどを考え、対応できるよう心掛けている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	年始の挨拶状や、手紙などで継続的な関わりを持つよう努めている。	○	サービス利用が終了した後も、支援が必要な場合、気軽に情報交換や意見交換、アドバイスが出来るような関係作りを行っていききたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ、入居者様一人ひとりの希望や意向にあったケアが出来るよう努めている。また、希望が伝わる事が困難な入居者様の場合も過去の生活歴や現在の状況など、スタッフ同士情報を共有し、意見を出し合い、本人本位に近づけるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	出来るだけ入居者一人ひとりの混乱を極力防ぎ無理の無いよう生活して頂けるよう努めている。	○	前施設の情報の中にどのような介助が必要であったかという項目の他に、家族の声を聞き、詳しい生活の様子などの情報も入れて想像しやすいように努めていききたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居様の生活リズムや一日の過ごし方等、ある程度把握し、入居者様の抱える疾病や身体状況を把握し入居者様の様子を見て出来る事、出来ない事を見極めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者様の様子を見ながら、必要な時にどのような声掛けが良いかなどを考え、対応できるよう心掛けている。希望などを踏まえうえでケアプランを作成し、業務ミーティングの機会を設け、スタッフ同士で意見交換を行っている。	○	家族が、お世話になっている等などの状況にとらわれず、一緒に入居者様を支え合っているという意識を持てるような支援を考え努めていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的にもた、その時の変化に応じてプランの見直しをするよう努めている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ちょっとした変化や気づきなどは、なるべく事細かく記録するようにしている。また、口頭などで伝えるようにしている。	○	どんな小さな些細な事でも気になったことは記録に記入し、また、申し送りの際などに後のスタッフに引き継ぎ、スタッフ同士が正確な情報を共有できる様更に取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の希望に合わせ、外泊などの要望に答えられるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要な社会資源を活用し、協力していただきながら支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	話し合うことはあるが、支援は現状ではない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現状ではないが、運営推進会議を通し、地域包括支援センター職員と相談などが言える体制が出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	ご本人や家族の意向に沿って、出来るだけ今までの状態を理解している医師の元適切な医療が受ける事が出来るよう、また、そうではない方に対しては、訪問医療を受け定期的な受診をしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	近郊の専門医の受診時に相談をさせていただいたり、法人の医師などの協力により、診断や治療がいつでも受けられるよう支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	法人より、週1回顔馴染みの看護師が来所し、入居者様全員の健康チェックを行っている。また、状態等は、いつでも連絡指示を受けられる体制を作り支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、病院との入居者様の状態や情報交換、家族との連絡、相談で連携を図っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に終末期のあり方について、アンケートをとり、ご家族やご本人の意向の確認を行い方針を共有しているが、掛かりつけ医療等は、現状では共有しているとまでは、出来ていない。	○	ご本人、ご家族の意向は、その都度その状態で変化していくので、定期的に意向を聞く機会を設けていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現状では支援はないが、今後変化に備えて検討などを行っていききたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご本人様、ご家族様と関わりながら、話し合いをした上で検討し、出来るだけ住み替えのダメージを最小限にするよう配慮している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者様のプライバシーを守れるように、また、声掛けには十分配慮し、言葉を選びながら対応している。</p>	○	<p>状況により、入居者様の機嫌を悪くさせてしまったり、不穏にさせてしまったり</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>言葉を発しない入居者様に関しては表情や、その時々行動や場面に気を配り、何を訴えているのかを察し理解し、要望に応えられるよう努力している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日々の生活の中で入居者様の生活のリズムに合わせ、入居者様の意向に添って過ごしていただいている。</p>	○	<p>一人ひとりのペースを大切にするには、安全、安心がしっかり配慮できなければならないと感じるので、もっと職員として何ができるのかを考えていきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご自分で衣服を選べる方に関しては、ご自分で選んでいただいている。理容、美容に関してはご自分の好み通りにできる様支援している。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>出来上がった食事等を盛り付けていただいたり、並べて頂いたり、片付け物などを一緒にいながら準備している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	出来るだけご本人の望む状態で楽しめるよう支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	ご本人の意思や排泄パターンを把握し、入居者様のペースに合わせた支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一日中入れる体制を整えており、ご本人様が入りたい時間に合わせ入浴していただいている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご本人様の意思にて入床される時間等は尊重している。介助が必要な方については、入居者様の状態に合わせ就寝の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	天気の良い日等は散歩やドライブ買い物等に誘い気分転換が図れるよう支援している。	○	もっと、生活の中でもレクリエーションを取り入れていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様にとって最適な方法をその都度、スタッフ同士、ご家族と相談や話し合いをし、支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者様から、買い物等希望に沿って、そのときの状態に合わせて支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	他入居者様と外出する機会はあるが、ご家族と共に外出する機会は少ない。	○	入居者様が、スタッフの支援の中、ご家族と共に外出できる機会を増やしていきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご本人の状態に合わせて自然な形で連絡が取れるよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご本人様にとって馴染みの方が訪問された際、穏やかな時間を過ごしていただけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の事を職員は十分に理解しており、身体拘束になるような対応や、言動などには、十分注意し取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	普段、業務を行っている時にも、目配り、気配りに気をつけて配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者様一人ひとりの状況、状態に応じ対応するようにしている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	薬の配布時等は職員同士声を掛け合いながら行い、日付、名前などの確認を行いながら配慮し、事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年に1度、急変時の訓練、講習を受けている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年二回、日中、夜間想定での避難訓練を行っている。また、災害時にも緊急避難先の場所を町内会の方と話し合い協力していただけるよう働きかけている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時や、生活の中で変化が起きた時、その都度家族に起こりうるリスクを説明させていただいている。また、その都度、対応の状態やケアの方向性を説明させていただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者様の異変、変化が生じた時は、その都度スタッフ間で情報交換を行いながら、迅速な対応に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様が服薬している薬の内容、副作用等について記された個別ファイルがあり、いつでも職員が確認できるようになっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	下剤だけに頼るのではなく、ヨーグルト等の乳製品、食物繊維等で入居者様の個々の排便のメカニズムを把握し、トイレでの排泄を心掛けている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケア、また、自力での口腔ケアが出来ない入居者様に対しては、義歯洗浄、うがい、うがいの出来ない入居者様に対しては、舌ブラシ、ガーゼ等で口腔ケアを行なっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日1000ccを目安とし、水分摂取していただけるように目標を掲げ、提供させていたっている、また、水分摂取時むせ込み等が見られる入居者様に対しては、とろみ剤、手作りのパバロア、プリン、ゼリー等で摂取させていたっている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事に使用する食器類等を拭く布きん等は毎回消毒し、スポンジは定期的に交換している。また、感染委員を設け感染症の流行等に応じ中心となり対策を呼びかけている。また、玄関前に入居時の注意事項を掲げ、手指の手洗い、うがい、アルコール消毒等を呼びかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	賞味期限や消費期限に十分注意をし、出来るだけ新鮮で安全な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先には、花や置物ベンチ等を置き、親しみやすく、入りやすい環境に努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ユニット内、居室は毎日清掃し、トイレ浴槽等も毎日、消毒清掃を行っている。また、共用の空間には、季節が感じられるような飾りつけ等も行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングだけではなく、リビングから離れた場所にもソファやテーブルを配置し、また、キッチンにおいても対面して話せるよに手作りのカウンターが設置されている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、入居者様ご本人が今まで使用していた家具や思い出の品々等を置き、落ち着いて生活していただける様努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	入居者様と職員の体感温度には差があるため、夏場や朝、夕、季節の変わり目には、特に気を遣い入居者様にも声掛けを行いながら配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	手すりの配置や、高さの違う洗面所やトイレを設置し、自立して入浴される入居者様が不安のないよう手すりを配置している。内部は壁面を作らず、入居者様が孤立しないよう、また、プライバシーが守れるよう工夫している。	○	家具の配置により、入居者様が日常的に使用するものを適切な場所に配置することにより、より自立した生活を送れる様努めていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	その日その日の入居者様の状態に合わせて、対応し、出来るだけ混乱を避け自尊心が傷つく事がなく暮らしていけるように支援している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	天気の良い日は、外での食事やお茶が楽しめるような環境を作りまた、入居者様の居室から外に植えられている花が見え、その花を摘みに出て、居室に飾るなどして楽しませている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②<u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②<u>職員の2/3くらいが</u> ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②<u>利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②<u>家族等の2/3くらいが</u> ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者様にとって居心地の良い環境、場所を提供できるよう、職員が一丸となって日々情報交換をするなどして入居者様と接し、ケアが行なわれていると思います。